



かつて日本の高度成長期に学生となった私が何故、フランス文学に関わるようになったか、受験戦争とか学生運動とかの時代を振り返って、お話しします。そして、文学研究の方法などについても触れます。

またつながりは唐突ですが、産大がこれからどうなって欲しいか、私見ではありますが、産大ルネサンスはハイブリッド教育から始まると、その未来像を語りたいと思います。

～テーマ～

「フランス文学と私、そして産大の未来・・・」

会 場

新潟産業大学202教室

日 時

2025年10月29（水）

15:00～16:30

対 象

教職員・学生・市民の方々

報告者

新潟産業大学

学長 梅比良 眞史

■報告者紹介

学歴	早稲田大学第一文学部フランス文学科卒業 立教大学大学院文学研究科フランス文学専攻博士後期課程 単位取得満期退学
職歴	新潟産業大学人文学部専任講師（1994.4～1997.3） 新潟産業大学人文学部助教授（1997.4～2002.8） 新潟産業大学人文学部教授（2002.9～2008.3） 新潟産業大学産業システム学部教授（2008.4～2009.3） 新潟産業大学経済学部教授（2009.4～2022.3） 新潟産業大学学長（2022.4～現在）
専門分野	20世紀フランス文学
社会的活動	柏崎ライフセービングクラブ副会長 ほか
著書	・改訂版対訳『木を植えた男』共著 2016、第三書房 ・「ジャン・ジオノの『動物寓話集』」単著 ・全訂版『実用フランス語技能検定4級傾向と対策』単著 2008、エディション・フランセーズ